

() 第14回恵比寿映像祭

YEBISU INTERNATIONAL FESTIVAL FOR ART & ALTERNATIVE VISIONS 2022

FUJIHATA Masaki / HIRASE Miki / Laura LIVERANI, SORA Neo /
MITAMURA Midori / ODA Kaori / PANTOGRAPH / SATO Tomoko /
Amalia ULMAN / YAMATANI Yusuke / Samson YOUNG and more

TOP MUSEUM

会期 令和4年2月4日(金)～2月20日(日) (15日間・月曜休館)

会場 東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス センター広場、地域連携各所[※]

時間 10:00～20:00 (最終日は18:00) ※入館は閉館の30分前まで

入場 無料 ※3階展示室、定員制のプログラム(上映、イベントなど)、一部のオンラインプログラムは有料
オンラインによる日時指定予約を推奨いたします。

[主催] 東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館・アーツカウンシル東京/
日本経済新聞社 [共催] サッポロ不動産開発株式会社/公益財団法人日仏会館 [後援] 株式会社
TBSホールディングス/J-WAVE 81.3FM [協賛] サッポロビール株式会社/東京都写真美術館支援会員

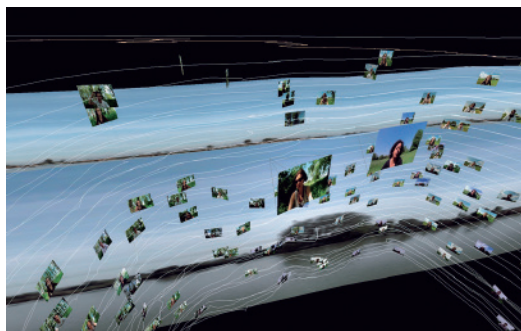
スペクタクル後 AFTER THE SPECTACLE

4(Fri)–20(Sun) 15 days / Closed Mondays FEB 2022

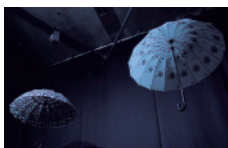
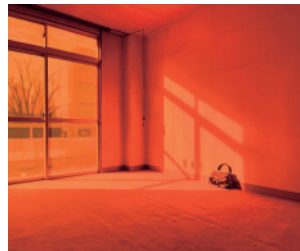
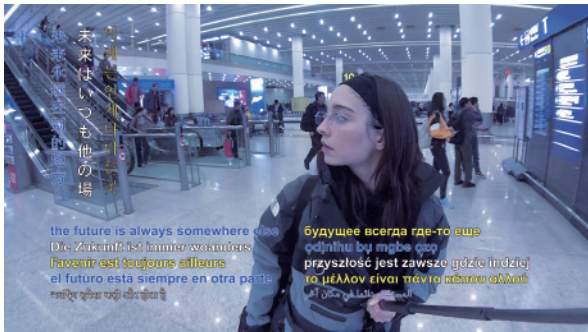
()
Yebisu International Festival for
Art & Alternative Visions

AFTER THE SPECTACLE

www.yebizo.com



1 2 3
4 6 10
5 7 9
8



1 藤幡正樹《Voices of Aliveness》2012年[参考画像] 2 ラウラ・リヴェラーニ、空音央(AINU NENO AN AINU アイヌ・ネノアン・アイヌ/人間らしい人間)2018年 3 サムソン・ヤン《The World Falls Apart Into Facts》2019/2020年 4 小田香《Day of the Dead》2021年制作:市原湖畔美術館 5 山谷佑介《The doors》2018年 6 平瀬ミキ《三千年後の投写術》2021年[参考画像] 7 佐藤朋子《オバケ東京のためのインデックス 序章》2021年[参考画像] レクチャーパフォーマンス初演・製作:シアター・コマンス'21 撮影:佐藤駿 8 パンタグラフ《ストロボの雨を歩く》2015年 9 アマリア・ウルマン《Buyer Walker Rover (Yiwu) Aka. There then》2019年 10 三田村光土里《〈Till We Meet Again また会うために、わたしはつ(くろ)う)のためのサウンド・インスタレーション》2020年[参考画像]

1 FUJIHATA Masaki, *Voices of Aliveness*, 2012 [Related image] 2 Laura LIVERANI, SORA Neo, *AINU NENO AN AINU*, 2018 Courtesy of G/P Gallery 3 Samson YOUNG, *The World Falls Apart Into Facts*, 2019/2020 Production documentation/ Photo: Lily Yiyi Chan 4 ODA Kaori, *Day of the Dead*, 2021 Produced by Ichihara Lakeside Museum 5 YAMATANI Yusuke, *The doors*, 2018 ©Yusuke Yamatani, Courtesy of Yuka Tsuruno Gallery 6 HIRASE Miki, *Projection for the next three thousand years*, 2021 Courtesy of Shinjuku Ophthalmologist (Ganka) Gallery contemporary art & subculture [Related image] 7 SATO Tomoko, *Index for a Ghost Tokyo: Introduction*, 2021 [Related image] Lecture performance produced by and premiered at the Theater Commons Tokyo '21 Photo: Shun Sato 8 PANTOGRAPH, *Walking in Strobe Light Rain*, 2015 Created for Exhibition "Motion Science" at 21_21 DESIGN SIGHT, 2015 9 Amalia ULMAN, *Buyer Walker Rover (Yiwu) Aka. There then*, 2019 ©Amalia Ulman. Courtesy Amalia Ulman and Wuzhen International Contemporary Art Exhibition. 10 MITAMURA Midori, *Sound Installation for "Till We Meet Again,"* 2020 [Related image]

[出品予定作家] 藤幡正樹／

平瀬ミキ／ラウラ・リヴェラーニ & 空音央／

三田村光土里／小田香／パンタグラフ／佐藤朋子／

アマリア・ウルマン／山谷佑介／サムソン・ヤンほか

第14回恵比寿映像祭 スペクタクル後 AFTER THE SPECTACLE

FUJIHATA Masaki / HIRASE Miki /
Laura LIVERANI, SORA Neo /
MITAMURA Midori / ODA Kaori /
PANTOGRAPH / SATO Tomoko /
Amalia ULMAN / YAMATANI Yusuke /
Samson YOUNG and more

恵比寿
映像祭
Yebisu International Festival for
Art & Alternative Visions

誰もが経験したことのないパンデミックによって、私たちの日常は大きく変化しました。その中においても、映像はより身近なメディアとして浸透し、社会、政治、経済、文化の変化を映し出すツールのひとつになっています。とりわけ、ソーシャルメディア上のコミュニケーションによって、誰もが複層的な次元で映像体験が可能となった現代は、祝祭的イベントから、災害や戦争などの出来事まで、いかなる情報も、一大スペクタクルに見える時代です。*

スペクタクルという言葉は、風景や光景という意味のほかに、しばしば壮大な見世物という意味で使われています。その語源、ラテン語のspectaculum (スペクタクルム) には、光学的な意味と同時に、地震や火山噴火などの天変地異などが含まれていました。19世紀になると、近代国家の誕生とともに、博覧会、写真、映画のなかで、それまでの天変地異は、壮大な風景や見世物として視覚的に再現され、人々に受容されていきます。

第14回恵比寿映像祭では、「スペクタクル後」をテーマに19～20世紀にかけての博覧会や映画の歴史から現代にいたるイメージおよび映像表現について考察します。現代作家による展示や上映、イベントに加え、小原真史氏をゲスト・キュレーターに迎えた博覧会関連資料と当館コレクションによる企画や、

映像作家・遠藤麻衣子によるオンライン映画プロジェクト、さまざまな作品との出会いを拡げる教育普及プログラムなどの新たな構成によって、映像体験の可能性を探っていきます。

*フランスの思想家のギー・ドゥボールは1967年に発表した『スペクタクルの社会』で、見世物という限られた意味ではなく、「イメージ」で構成された現代社会を把握する概念として「スペクタクル」を考察し、メディアによってイメージだけを植え付けられ、ただ受け身でいる状態をスペクタクル社会として批判しています。

恵比寿映像祭とは
恵比寿映像祭は、平成21(2009)年の第1回開催以来、年に一度恵比寿の地で、展示、上映、ライブ・パフォーマンス、トーク・セッションなどを複合的にこなしてきた映像とアートの国際フェスティバルです。映像分野における創造活動の活性化と、映像表現やメディアの発展をいかに育み、継承していくかという課題について広く共有する場となることを目指してきました。第14回となる今回は、「スペクタクル後」をテーマに、19世紀の歴史から現代にいたるイメージの変容について幅広く考察していきます。

About the Festival:
The Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions is a unique annual event founded in 2009 which combines exhibitions, screenings, live performances, and talk sessions. Over the years, the festival has aspired to be a forum for exploring the question of how to nurture and sustain the development of visual expression and media with a wide range of stakeholders, while revitalizing creative activities in the visual arts. Revolving around the central theme "After the Spectacle," this 14th edition of the festival explores the possibilities of imagery, based on broad examinations of how the moving image has transformed in the course of its history from the 19th century up to today.

www.yebizo.com

お問い合わせ 東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel. 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

事業は諸般の事情により、変更することがございます。最新情報は恵比寿映像祭公式サイト
(www.yebizo.com)をご確認ください。

Contact Tokyo Photographic Art Museum Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita, Meguro-ku,
Tokyo 153-0062 Tel.03-3280-0099 www.topmuseum.jp
The Museum's opening hours and exhibitions are subject to change. Please be
sure to check the official website of Yebisu International Festival for Art and
Alternative Visions (www.yebizo.com).

TOP MUSEUM

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

ARTS COUNCIL TOKYO